

P-59

腋窩部より分離された*P. avidum*に対する温清飲の阻止効果

○松垣修一¹⁾，諸橋正昭¹⁾，豊本貴嗣²⁾
 富山医薬大皮膚科¹⁾，済生会高岡病院皮膚科²⁾

<目的> *Propionibacterium* spp.は皮膚と関連するgram positive anaerobic rodの代表と言える。*P. acnes*は痤瘡の発症で、又、*P. granulosum*は免疫方面や痤瘡皮疹で各々関与が深い。*P. avidum*を含むヒト関連3菌種とも酵素産生能を有するが、*P. avidum*に関する皮膚科での研究は近年皆無である。今回、*P. avidum*を腋窩部から分離培養し、温清飲の阻止効果について検討した。

<方法> 腋窩部健常皮膚由来や皮疹由来*P. avidum*を対象とした。Controlとして*P. acnes*を用いた。同定や性状の為、Crystal Anaerobes ID System, Gas injection system, PCRや生化学試験等を使い、被験剤に温清飲を使用した。併せて、被験剤添加培地における脂肪酸産生量も測定した。

<結果> 腋窩部由来*P. acnes*は*P. avidum*より頻度は高かった。生化学試験では、adonitol, erythritol, maltoseやtrehalose等で陰陽性の差がみられ、gene 16 S rRNAも同様であった。両菌種でのlipase activityの存在、更に温清飲による両菌種のlipase activityの抑制と発育量の抑制が共に確認された。又、腋窩部の健常皮膚と皮疹間で、両菌種のlipase activityの差異がみられた。

<考察> *Propionibacterium* spp.中、*P. acnes*は優勢的に分離されるが、腋窩部も同様である。*P. avidum* lipase activityは*P. acnes*同様活発と推察されるが、皮膚の状態による影響も否定できない。温清飲による抑制効果は、腋窩の種々疾患に再現されるか興味を持たれる。*P. avidum*はpathogenicに乏しく*M. globosa*や*C. albicans*ほどに重視されない。反面、*P. avidum*はproteinase activity, *P. acnes*は加えてhyaluronate lyase等を産生するとされる。種々の酵素活性に対する漢方薬の阻止効果は未知が多く、今後の研究が期待される。